

防災・減災対策の推進と地域活性化

「内陸のフロンティア」を拓く取組

東日本大震災以降、防災・減災に対応した国土利用が求められる中で始まった「内陸のフロンティア」を拓く取組。平時と有事の機能を兼ね備えた新時代の地域づくりとして注目される同取組の最前線をレポートする。

県内各所で着実に進む 魅力あふれる地域づくり

「防災・減災」と「地域成長」をキーワードに掲げる静岡県の「内陸のフロンティア」を拓く取組は、「安全・安心で魅力あふれる地域づくり」という言葉に換言できる。沿岸・都市部においては、防災・減災対策を最優先に進め、都市機能を維持・確保したまちづくりを進める。内陸・高台部には津波の心配がない先進地域を築き、首都圏から関西圏を結ぶ大動脈の安全性を保つと同時に、地域の特性を最大限に生かす多自然共生地域を形成する。平成25年4月に構想を公表したこの先進的なプロジェクトは、すでに県

内各地で具体的に動き出し、目に見える形になってきている。

磐田市の福田漁港周辺では、海辺の地域資源を活用した産業振興と交流人口の拡大を目指して「食の拠点づくり構想」が進んでいる。地域のランドマークとなる津波避難タワーを中心に、商業施設やアクセス道路を整備し、地域のにぎわいを創出する計画だ。平成28年度には避難タワーや周辺施設の供用を開始し、食やレジャーに関する情報も発信していく予定だ。

新東名高速道路を活用した事業も進んでいる。富士市の新東名新富士IC周辺の物流拠点創出事業では、ICに隣接する約45ヘクタールの土



津波対策とにぎわい創出の両立を目指す福田漁港(磐田市)
食の拠点と津波避難タワーを一体的に整備し、地域のにぎわいを創出する。



内陸・高台部における工業団地の整備(小山町)
富士山の眺望、景観や自然環境に配慮した小山湯船原工業団地。平成30年度に分譲予定。



沿岸・都市部における物資供給拠点の整備(吉田町)
被災時に避難場所となる防災公園と物資供給が可能な商業施設を整備する。



新東名IC周辺における物流施設の整備(長泉町)
総合特区で第1号の企業進出となったイオン長泉プロセセンター。平成27年9月に稼働予定。

地区画整理事業地内に流通業務地を造成中で、平成25年度には企業誘致の窓口となる「新富士インター物流団地合同会社」を設立した。すでに大規模流通街区4区画への企業進出が決定し、平成27年度から順次供用を開始する見込み。また、有事の際は区域内の公園を防災拠点として活用する計画だ。

小山町の湯船原地区では、地域の森林資源を活用した資源循環型林業を構築するため、再生可能エネルギーを活用した産業拠点整備事業に取り組んでいる。木質バイオマスを活用した発電所や太陽光発電も取り入れ、平成27年度には工業団地の造成に着手する。また、大規模な次世代施設園芸団地では、平成28年度には木質ペレットボイラーを利用し栽培した高糖度トマトの出荷も始まる。

防災先進県が進める

新時代の地域づくり

「内陸のフロンティア」を拓く取組は、東日本大震災以降、防災・減災に対応した国土利用が求められる中、災害

に強いエリアとして知られる「防災先進県：ふじのくに」が進める新時代の地域づくりだ。

取組には、①防災・減災機能の充実・強化、②地域資源を活用した新しい産業の創出・集積、③新しいライフスタイルの実現の場の創出、④暮らしを支える基盤の整備という4つの基本目標があり、それらを実現するために「沿岸・都市部のリノベーション(再生)」「内陸・高台部のイノベーション(革新)」「多層的な地域連携軸の形成」という3つの基本戦略を設けている。具体的には、防災・減災対策を最優先にしながら、国の総合特区制度の活用や内陸フロンティア推進区域制度により、県、市町、民間の連携による先進的な取組を平成25年度から概ね5年間に集中的に実施する予定だ。

先導的な取組で

憧れとなる静岡県へ

県内海岸部の津波対策施設については、東海地震の第3次被害想定に基づき整備の約9割が完了し、津波避難タワー等も東日本大震災以降、12倍に

増えている。こうした全県域を対象にした防災先進県としての取組を、より強力に推進するため、先導的なモデル地区として設けたのが内陸フロンティア推進区域だ。これは市町の施策や事業を後押しするための制度で、現在17市町37区域が指定されている。前述の磐田市、富士市、小山町以外にも、伊東市の「伊豆・いとう地魚王国推進区域」、長泉町の「長泉沼津IC周辺物流関連産業等集積区域」、吉田町の「物資供給拠点確保事業推進区域」、掛川市の「掛川市海岸命を守る希望の森づくり地区推進区域」など、「防災・減災」と「地域成長」の両立を目指す地域づくりが県内各所で着々と進んでいる。静岡県のポテンシャルと魅力をさらにレベルアップさせる「内陸のフロンティア」を拓く取組。県民が誇りを持って住み続け、他県民からも憧れの対象となる静岡県の姿がそこにある。